

平成22年度「青少年育成のための地域連携推進事業」中央研修会

期 日：平成22年11月29日～30日

会 場：東京都代々木「オリンピック記念青少年総合センター」

講 演：「『子ども・若者ビジョン』から考えるこれからの子ども・若者」

講師：日本大学教授 広田照幸 氏

☆ビジョンの5つの理念

- ①子ども・若者の最善の利益を尊重
- ②子ども・若者は、大人と共に生きるパートナー
- ③自己を確立した社会の能動的形成者となるための支援
- ④一人一人へ総合的な支援を、社会全体で重層的に実施
- ⑤大人社会の在り方の見直し

☆ビジョンの3つの重点課題

- ①子ども・若者が、生き生きと生きていく力を身につける
- ②困難を有する子ども・若者やその家族を支援
- ③地域における多様な担い手の育成

☆「社会の能動的形成者を育てる」必然性

今の社会への若者の参入・適応→若者自身の活動を尊重
(若者の試行錯誤を許容) →子ども・若者に新しい社会を

作ってもらう

分科会(第2に参加)

講演：「子どもたちの居場所づくりに関わって」

講師：福岡県田川ふれ愛義塾理事長 工藤良 氏
(元暴走族、現在NPO法人更生保護施設理事長)

- 諦めず自分を最後まで面倒見てくれた人へ報いたい。与えられた温かい10年前の愛を、今、悩み荒れている子ども達へ返したい。
- 平等の重みを30歳になって肌で感じた。子ども100人100様の環境は、離婚・暴力・ネグレクト等から。すべて大人が悪い。
- 若い時、200人を悲しませたが、現在、400人から感謝されていると思う。
- 携帯電話、パソコン等は、人とのつながりを切断している。
- 神戸のサカキバラ、千葉県市原の事件、東京秋葉原の事件の犯罪者を崇拜している若者は10万人はいるだろう。大事件が続出する危険性は高い。

推進員の宝もの紹介

鯉川 青少年育成推進員になり30年

鯉川村 青少年育成推進員 栗田 準市 氏

私が、青少年育成推進員に任命されてから、今年で30年になります。任命された年、私は村の青年団長をしており、まさに青年で、指導するよりも指導される立場でありました。

あれから30年、月日の流れは本当に速いもので、自分も二人の娘の父となり、その娘も成人し社会人としてがんばっております。10年一昔とは言いますが、30年前と今とは、あまりにも社会が変わりすぎたように思います。そして、青少年に関して言えば、年々悪い環境になってきているように思えてなりません。その原因は、大人である私たちの責任です。

『親の背を見て、子は育つ』のことわざは、今も昔も決して変わらないものだと思っております。少子化、核家族の今の社会、大人の変化がこれほど必要な時はないと思います。

最後に、『井の中のかわず、大海を知らず』のことわざは、みなさんもよくご存知だと思います。実は、その先にも言葉があったのです。『井の中のかわず、大海を知らず。されど、空の深さを知る』。今の大人に必要なことは、その空の深さを知ることだと、強く感じております。

戸沢 子どもたちの元気は地域の宝物

戸沢村 青少年育成推進員 荒川 精治 氏

私が住む名高地区で6年ほど前から、子ども会行事と併せて、地区のお年寄りと一緒にミニ門松づくりを始めました。学校から頂いた給食の空き缶を活用し、子ども達が作付け収穫した稲わらを地区の人に編んでもらい、コモにしました。竹は近隣の住民に頂き、当日に切断加工し飾りつけて完成です。一人暮らしの家にも届けて喜んでいただきました。

終了後は子ども達と一緒に懇親会を行い、有意義な一日となりました。参加したお年寄りの方々から、「これからも、ずっと続けてほしい。自分たちの居場所がほしい」との声がありました。また、子ども達といると元気が出る、楽しい。」等、建設的な意見が出て、こりゃやるしかないなど少し酔っ

た勢いもあり、「来年は全戸に配るぞ」と言ってしまいました。(平成22年度は無理でした。反省です。)

写真でも分かる通り、お年寄りも子ども達もいい笑顔で元気そのものでした。毎年、同じミニ門松づくりですが、近い内に地区全戸に配り、新年を迎えるのが私の夢です。門松づくりが、茶飲み話の話題になって、地区内のお年寄りの方々喜んでくれたら、みんながもっと元気になると思います。



編集後記

12月の「青少年育成懇談会」に参加されました育成推進員等の事後アンケートに、「親御さんの育て方の良さが感じられる高校生」、「しっかりした考え方をもち、最上の高校生は捨てたものではない」、「純な心、清い心、家族を愛する心を持つ高校生」等の記述が多くありました。

不景気、犯罪などの暗いニュースが連続している昨今、高校生からさわやかなエネルギー、パワーをいただいた大人が少なくなかったと感じております。最上地区内それぞれの地域や家庭において、大半の地域住民、保護者、そして子ども達が前向きに考え明るく生きていることを感じ取れた1日でした。

これからも「さすがに大人は手本、青少年もなかなかやるね」が、会話で飛び交う地区になることを信じています。